

合併後12回目となる日光市の派遣団には、14校から2年生39人が参加しました。代表として豊岡中の星野李瑠さん(13)に感想を聞いた。

昨年、その姿をテレビで見て、広島に関心を持ちました。

訪問先で最も印象に残つているのは、初日に訪れた平和記念資料館です。展示されている被爆者の写真や遺品の数々。写真は子どもが多く目に付きました。ひどいやけ

ヒロシマ派遣 中学生報告 2017

⑨

光市に派遣団には、14校から2年生39人が参加しました。代表として豊岡中の星野李瑠さん(13)に感想を聞いた。

◇ ◇

広島を訪れ、平和記念公園で慰靈碑に献花する米国のオバマ前大統領。



豊岡中
星野 李瑠さん

自分にも平和伝える役割



5歳で、爆心地から約3・5キロの長束村（当時）の小学校教室で被爆したそうです。

一瞬で約7万人が亡くなつただけでなく、大量に放射線を含んだ「黒い雨」も降り、被爆した人は後に白血病などで息を引き取つたと話してくれました。さらに食料がなく、畠山さんの弟は餓死しました。涙ながらに教えてくれた畠山さん。原爆は後々

今まで苦しみが続くことがよく分かりました。畠山さんの「どうしたら核兵器、戦争がなくなるのかを、若い人たちに考えてもらえた」という言葉が心に残りました。

迎えた6日の平和記念式典。小学生たちが「平和への誓い」として、「平和を考える場所、広島。平和を誓う場所、広島。未来を考えるスタートの場所、広島」などと、広島について堂々と意見を述べていることに感動しました。

広島に行き、今の平和な生活のありがたさがよく分かりました。命の重みも、より重く感じます。私たちが広島のこと、戦争のことを、世界に、未来に伝えていかなければ、同じ過ちを繰り返してしまうと思います。私は広島で学んだことを今後に生かし、伝えていきたいと思います。

（構成・斎藤美和子）